

卒論ゼミ2021年 4月第一回 良い研究とは何か

立教大学社会学部 村瀬洋一

論文を1つの研究として完成させるために、自分が何をすべきなのかよく考えること。

1. 新学期にまずやること

- ・完成までの計画を立てる。時間の使い方を工夫すること。
自分なりの目標を書く。何を研究目的にするのか。テーマの候補は無限にある。
- ・テーマ決定のために文献を探す → 良い文献を読むことが大切。
一般書でなく、学術書や学術論文を読む。
- ・適切な形式で文献リストを作成する。冒頭で著者名と発行年半角数字を書く。

2. 良い研究とは何か

そもそも、研究とは何だろうか。論文とは、これまで他の文献に書いてあることや、お勉強の結果をまとめるのではない。1つの研究の成果として、独自の発見を得ることが大切。研究とは、新しい知見の発見が重要。

結論として発見があれば良い。発見とは何か。よく考える。疑似相関に注意する。

まず、問が明確であることが必要。**研究上の問(Research Question)**とは何か。

冒頭部で、明確な目的や仮説を書いていない文章がたくさんある。分かりにくい。○○について検討したい、××に興味がある、くらいしか書いていない論文が多い。具体的な問が何か、読み手に伝わらない。

3. 論文構成のポイント 目的、方法、結果、結論

論文は4つの部分からなる。必ず冒頭部で、目的と仮説を明確に書く。

村瀬ゼミホームページの卒論構成注意をよく見る。

冒頭部で具体的な目的を提示する。また、目的と結論が対応していることが重要。

結論とは、分析結果のまとめではない。分析結果（事実）を元に、自分が主張したいこと（意見）を書く。強気で自分の主張について大口をたたくことが大切。自由に楽しく、結果の解釈を考える。解釈は、自分の考えを書くしかない。

冒頭で、○○を解明する、とはっきり書く。○○を検討したい、など、目的が不明確な文章が多いので注意する。

結論部が1ページしかないような論文は不可。結論として何を発見したのが大切。

まず、友人達にじっくりインタビューするなど、予備調査をやってみる。その上で、ア

アイデアメモを楽しく書いてみるとよい。

テーマが決まったら、予想される結論を、少し書いてみると良い。論文は、最後から書くことが、1つのコツ。

社会の特徴や、社会の変化と関連づけて解釈するとよい。例えば、最近の社会の変化や、個人主義化、情報化、国際化などと関連させつつ、結果の解釈を書く。もともと、社会学における**基本的な社会変動(social change)**とは、産業化が進み、都市化や高学歴化が進むことである。自分の分析結果や主張と、それらの変化に、何か関連があるかを考えて、結論部で、魅力的な文章を書くといい。

★まず論文全体の構成を書いてみる。目的や、結論がない構成は不可。

4. 卒論演習でまずやること。

テーマを決めるための作業、文献検索

文献要約を書く→ゼミで発表と討論。他人と話すことは重要。

今後の計画を立てる。いつまでに仮説を完成させ、調査や分析を始めるか。

★文献検索を、ネットですませてはいけない。ネットだと、数ページだけの学会要旨集など簡単なものが出る。本格的な論文はネット上に少ない。

本文中では、少なくとも学術論文10本以上は引用すること。これまでの研究の流れについて、自分なりに整理してまとめることが重要。

★分析について

何らかのデータを集める、データアーカイブから取り寄せる。

変数について。必ず、シンタックスで新変数を作る。

自分がどんなものを作ったか後で分かる。ミスもチェックできる。

5. テーマが決まったら、すべきこと

表紙と目次を作る。

問を立てる、仮説を書く。

先行研究をまとめる

→構想発表会 7月中予定 先行研究を十分に把握する。

★結論として何を言うか、よく考える

11月初めに仮提出する。

独自の新しい発見とは

★構想発表会の内容

具体的な目的や仮説を明確に書く

仮説とは因果関係を含む文。原因と結果の2変数を含む文を書く。

独自データがあるか。ネット調査の分析は良くない。無作為抽出された社会調査データを探ること。あるいは、独自の調査について計画する。

文献リストが少ないものは失格、学术论文をたくさん集めてよく読む。

最後までやり通せば、自信もつくし意味がある卒論となる。十分に努力すること。

★参考 卒論評価基準

学術研究の成果として、新しい知見の発見があること。論文としての内容、とくに結論部として発見したことの内容が豊富であること。

目的と分析内容と結論部に一貫性があること。仮説が明確で、分析や結論とつながっていること。

先行研究を幅広く把握していること。最後の文献リストに学術雑誌の論文がなく、webアドレスを除くと実質的に文献リスト1ページ以下等の論文は、視野が狭すぎて不適切。

結論部が1ページもなく、インタビュー人数が数人とか少ないような論文も視野が狭すぎて不適切な論文である。数名以下のインタビューや観察で研究が出来るかのように主張する変な学者がたまにいるが、単に、基本的な研究の意味や、測定法や分析法が分かっていない実力不十分な学者がいるというだけのことである。信用してはいけない。

6. 引用法と盗作について

引用と盗作は違うものである。引用は自由だが、必ず引用元を書かなくてはならない。レポートや論文作成の際に、引用元を書かずに引用すれば、盗作したことになってしまうので、十分に注意すること。最近、ネット上の文章をそのままコピーしてレポートで使う例も増えているが、これも完全なルール違反である。

他人の文章を、自分の文章であるかのように書くと盗作になるが、悪気はなくとも、引用元を明示せずに盗作になっているものが時々見られる。レポートや卒論等で、他人の文書を引用するときは、必ず引用部分を「 」でくくり、引用の前に、引用元を書くこと。それ以外の形式で引用してはいけない。また、必ず「引用元」を明示すること。引用元を書かずに引用すると、盗作したことになるので、著作権法に反し、学問上、重大なルール違反となる。引用は自由だが、盗作してはいけない。

他人の文章を引用するときは、山田(2006: p.27)によれば、「○○」である、などのように、必ず引用元を先に書くこと。

★文献リストの形式 一著者名と発行年半角数字を必ず最初に書く。その後に、「論文名」「本や雑誌名」と発行所を書くこと。論文名は一重かっこ、本や雑誌名は二重かっこを使う。著者名のアルファベット順にする。テキスト巻末や以下の文献リスト形式を参照。

7. ネット上の情報について

ネット上の情報や、ネット上の事典、ウィキペディア、各種ブログやネット上データは、基本的に「ガセネタ」も多く信憑性が低い。ウィキペディアなどネット情報は、ウソも自

由に書き込めるし、個人が趣味で作った文章で正確なチェックはなく、信用できない情報が多い。また、すぐに消えてしまう情報も多いので、研究において使うべきではない。必要な情報は、本として出版されているものから引用すること。本として出版されたものは、編集者のチェックもあり信用度は高い。

また、ネット上にある図表や写真を自分のレポートで使うことは、図やデザインの無断使用となるので著作権法違反である。レポートや卒論で他人が作ったグラフや写真などを勝手に使わないこと。自分でデータの数字を入手して、グラフを自分で作り直すこと。写真は自分で撮るか、どのような写真があったかについて、出典を明記して文章で書けば良い。ネット上の情報は著作権フリーではない

多くの場合、最新のデータは本や統計資料となっている。データを調べるときは、必ず図書館へ行くこと。データ検索をネットのみですませることは、絶対にしてはいけない。図書館の参考室には、各種の事典や図鑑、数十冊からなる百科事典もある。まず図書館できちんとした百科事典の索引を見て、使ってみると良い。百科事典をバカにしてはいけない。信用できる統計データも、ネット上に少しはある。村瀬ゼミホームページの「文献や統計リンク集」などを見てもいい。調査データについては、立教のアーカイブ RUDA や、SSJ データアーカイブなどをよく見ること。

8. 文献検索について

立教内LANに接続されているパソコンであれば、無料で使えるオンラインデータベースが各種ある。図書館ホームページの解説をよく読むことが重要。学術雑誌内の目次情報や、新聞記事検索が可能（学内のみ）。まずは、以下を使いこなすとよい。

- ・国立国会図書館ホームページ 「雑誌記事索引」
- ・サイニイ (CiNii 論文情報ナビゲータ 学術雑誌目次等)
- ・SocINDEX with Full Text (立教図書館ホームページ「雑誌記事全文」より使える)

学会が出している学術雑誌を読む。新しいものはデータベースに入っていないし、本文をインターネット上で公開しないことも多い。雑誌を手に取り紙の目次を見ること。ネット上の無料の文章は、学会要旨集など簡単なものが多く、論文の本体は少ない。

2021卒業論文演習 日程予定（春学期14回、秋学期14回）

日程	回	内容
0413	1	卒論経過報告 春休みの成果 ★課題 各自の研究テーマと仮説、文献リストをブラックボード掲示板で提出
0420	2	社会調査演習2.5 コウディング
0427	3	学術論文の発表 ***** 連休中 *****
0511	4	学術論文の発表
0518	5	社会調査演習2.1 系統抽出法
0525	6	社会調査演習2.2 確率比例抽出法 ★ゲストスピーカー企画
0601	7	社会調査演習2.3 統計的検定

0608	8	学術論文の発表
0615	9	学術論文の発表
0622	10	分析実習1
0629	11	分析実習2
0706	12	各自の仮説と分析計画
0713	13	各自の仮説と分析計画
0720		***** 休講 *****
0803	14	卒論構想発表会

秋学期は各自の分析途中経過の報告や、分析結果をもとにした討論を行う。
9月にまず、調査計画や分析予定を報告すること。

参考文献

- ボーンシュテット・ノーキ著＝海野道郎・中村隆監訳. 1990. 『社会統計学 ―社会調査のためのデータ分析入門』ハーベスト社.
- 文春新書編集部編. 2006. 『論争 格差社会』文藝春秋.
- 土場学編. 2004. 『社会を“モデル”でみる ―数理社会学への招待』勁草書房.
- 原純輔他編. 2000. 『日本の階層システム』1～6巻. 東京大学出版会.
★1995年SSM調査の分析結果をもとにした論文集.
- 原純輔・海野道郎. 2004. 『社会調査演習 第2版』東京大学出版会.
★社会調査法について、巻末の調査票見本などよくまとまっている。
- 橋本健二. 2018. 『新・日本の階級社会 (講談社現代新書)』講談社.
- 小林淳一・木村邦博編著. 1991. 『考える社会学』ミネルヴァ書房.
★初学者が実証的な社会学を学ぶために、よくできた本。
- 小林淳一・木村邦博編著. 1997. 『数理の発想で見る社会』ナカニシヤ出版.
- 宮野勝. 1986. 「誤答効果と非回答バイアス：投票率を例として」. 『理論と方法』
Vol.1 No.1:101-114、ハーベスト社.
- 村瀬洋一. 2006. 「階級階層をめぐる社会学」宇都宮京子編『よくわかる社会学』ミネ
ルヴァ書房.
- 村瀬洋一他編. 2007. 『SPSSによる多変量解析』オーム社.
- レイブ・マーチ著＝佐藤嘉倫・大澤定順・都築一治訳. 1991. 『社会科学のためのモデル
入門』ハーベスト社.
- 数土直紀・今田高俊. 2005. 『数理社会学入門』勁草書房.
- 谷岡一郎. 2000. 『「社会調査」のウソ ―リサーチ・リテラシーのすすめ』文芸春秋.
★世間一般の調査の問題点について分かりやすく解説。
- 富永健一. 1979. 『日本の階層構造』東京大学出版会.
- 友野典男. 2006. 『行動経済学 ―経済は「感情」で動いている』光文社新書.
- 筒井淳也他編. 2016. 『計量社会学入門 ―社会をデータでよむ』世界思想社.
- 安田三郎. 1971. 『社会移動の研究』東京大学出版会.
★日本社会の開放性に関する代表的研究。
- 安田三郎・海野道郎. 1977. 『社会統計学 改訂2版』丸善.
- 安田三郎・原純輔. 1982. 『社会調査ハンドブック (第3版)』有斐閣.
- 与謝野有紀編. 2006. 『社会の見方、測り方 ―計量社会学への招待』勁草書房.

文献リストの形式上の注意

2行以上になる時は、冒頭を半角空白4つ分あける。

論文は「」、本や雑誌は『』で囲むこと。

論文のページ数を Vol.13: 101-114 のように書く。